

堤外地に働く人たち等を対象とした 避難対策ワーキンググループ

(報告)

1. 徳島小松島港沖洲地区津波避難計画検討の流れ

平成24年度

第1回 避難対策WG(H24年10月11日)
○検討方針の確認

第2回 避難対策WG(H25年2月20日)
○津波避難計画の構成について確認

徳島小松島港洲地区津波避難計画書
【以下…津波避難計画書】(案)の作成

避難WG



平成25年度

避難に関わる現地踏査(H25年7月1日)
●避難訓練

第3回 避難対策WG(H25年9月19日)
●現地踏査結果を津波避難計画書(案)に反映

第4回 避難対策WG(H26年2月19日)
●「港湾の津波避難対策に関するガイドライン
(国土交通省港湾局)を津波避難計画書(案)に反映

津波避難計画書を
徳島県、徳島市、自主防災組織へ提供

現地踏査



↑計画書(案)の経路を避難

←避難施設への避難状況

2. 避難計画の基礎条件

○津波シミュレーションによる浸水条件

- 徳島県津波浸水想定(最大規模)による。
- 東沖洲地区(徳島市マリンピア東端)には**最大波が発災後53分**で到達。
- 地区のほぼ全域が浸水(1.0m以上の浸水を予測。)

○避難施設等の整理

- 東沖洲地区での避難ビル指定は**4箇所**。
①徳島市北部浄化センター、②徳島新聞印刷センター
③(株)ニフレイ・ロジスティクス四国(倉庫)、④サテライト徳島(駐車場棟)
- 収容可能数の合計(約7300名) > 地区就業者数(3700名)
- 避難ビルは緊急的、一時的施設。(備蓄食料等は無し)

○確実、安全、迅速な避難行動と経路

- 避難行動は**平日の日中**を想定。
- 避難は**徒歩**を想定。
・自動車での避難は、防潮堤の閉鎖、地震による家屋の倒壊、徒歩避難者等による渋滞等から困難であると想定。
- 現地踏査(訓練)は**最短避難ルートでの実施**。

徳島市マリンピア東端	津波影響開始時間		最大波	
	-20cm(分)	到達時間(分)	津波水位(T.P.m)	備考
	25	53	5.0	第1波

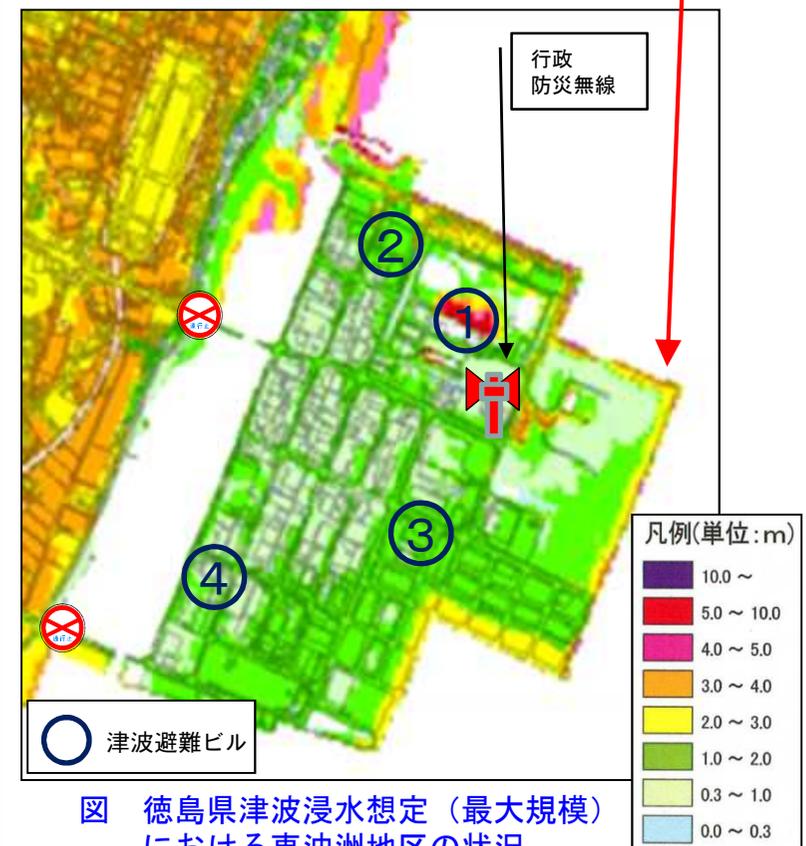


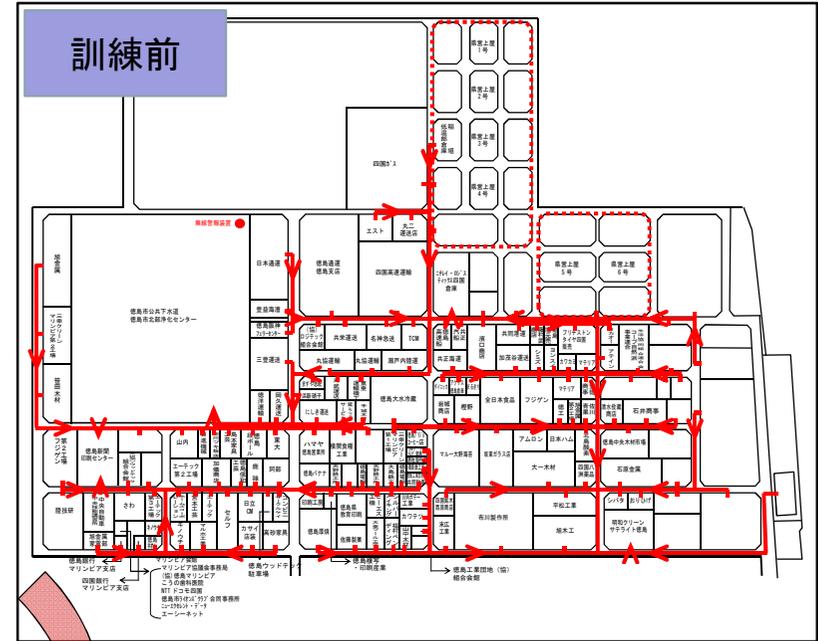
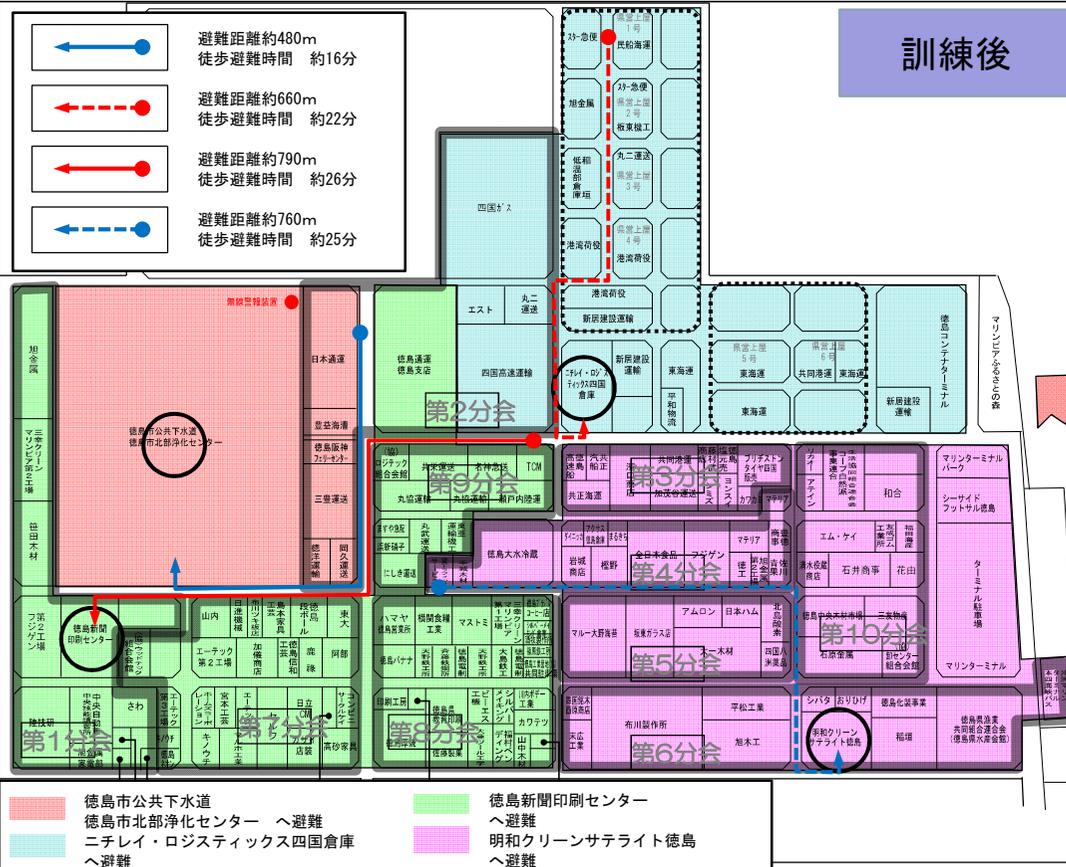
図 徳島県津波浸水想定(最大規模)における東沖洲地区の状況

[出典：徳島県津波浸水想定(平成24年10月)]

3. WGによる現地踏査(訓練)結果による改善

■ 現地踏査(訓練)における意見

- ・最短経路では避難施設の収容人数を超える施設がある。
- ・避難施設の入口、階段が狭く混雑する。
- ・訓練、企業説明を考慮すると自治会単位での避難場所の設定が良い。

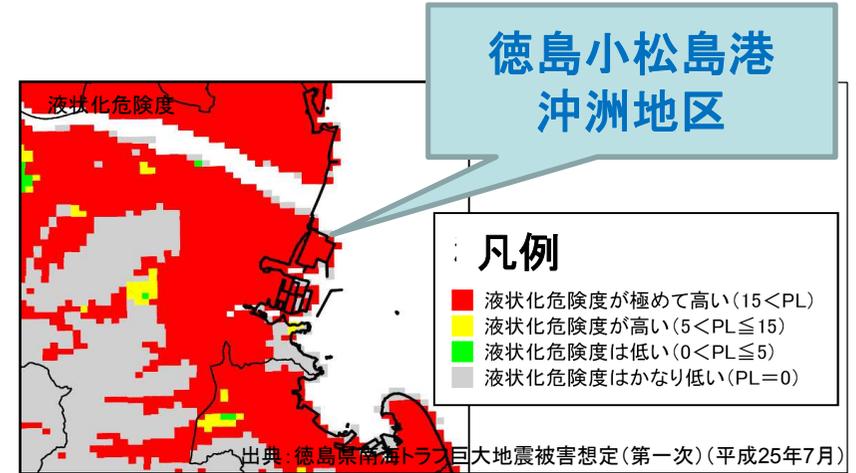
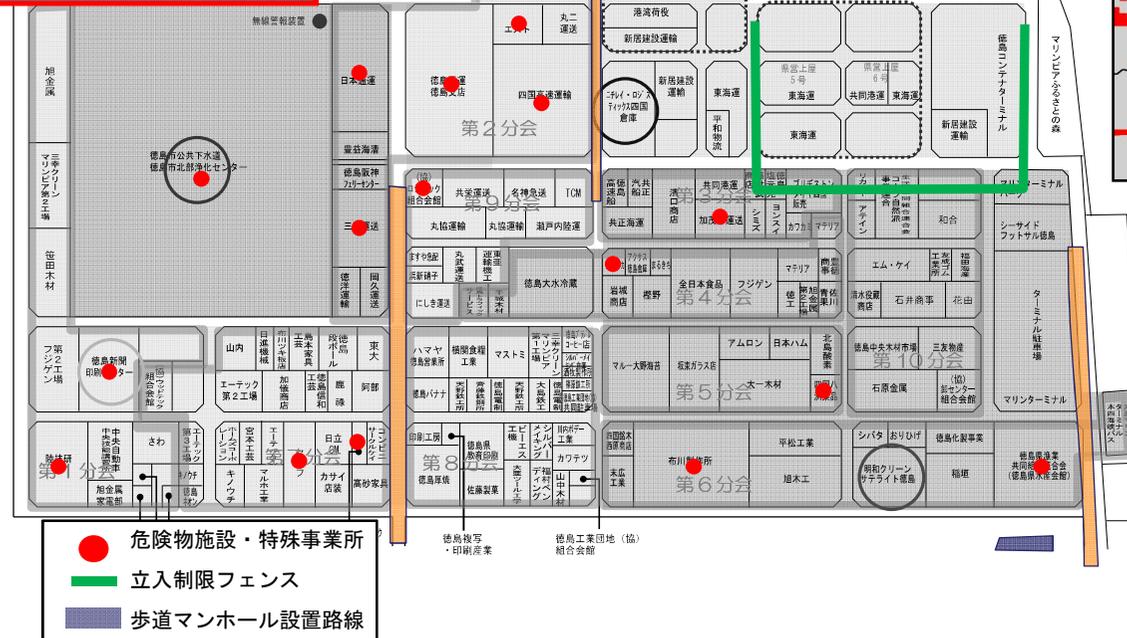
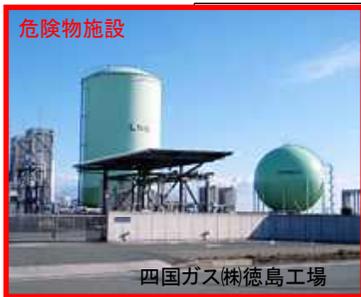


- ## ■ 意見による避難経路改善
- 施設別参集者数の見直し。
 - 参集時に混雑となる施設構造を踏まえた施設設定及び避難時間の見直し。
 - 自治会単位の避難施設の設定。

4. 港湾の津波避難対策に関するガイドラインの反映

～課題の整理

- 東沖州地区の特徴や検討事項等について、**ガイドラインに沿った目次構成に見直し。**
- **液状化に関する被害想定や注意経路・被災の特徴、留意点等を整理・追記。**
- **危険物を取り扱っている施設や避難に支障になりそうな資材等を取り扱っている特殊な事業所について調査し、避難計画書へ追記。**
- **避難計画書(案)における現状の課題等を整理・追記。**



↑ 歩道上マンホール

↑ 液状化によるマンホールの被災事例

5. 徳島小松島港東沖洲津波避難計画書(案)

徳島小松島港東沖洲地区

津波避難計画書 (案)



平成 26 年 2 月

堤外地に働く人たち等を対象とした避難対策WG

第1章 総則

1. 目的及び経緯
2. 津波避難計画の位置付け
3. 津波避難計画策定にあたっての役割
4. 検討フロー
5. 津波避難計画の見直し

第2章 津波避難計画

1. 東沖洲地区の概要
2. 被災想定
3. 避難行動計画
4. 津波避難ビルへの避難後の対処行動
5. 平常時の津波防災啓発
6. 避難訓練
7. 今後の対応及び課題について